

2014年5月12日ホーリネス聖会説教勉強会

## 「デニス・キンローの説教論—『御霊の内です説教する』より」

発題者：宮崎誉

文献 Dennis F. Kinlaw, *Preaching in the Spirit*, (Nappanee, IN: Francis Asbury Press, 1985).

デニス・キンロー『キリストのように生きる』蔦田緑乃訳、いのちのことば社

序) ホーリネス聖会説教の学びとして取り組むために、少なくとも三つのアプローチがある。

第一、聖会で語られる説教を巡り共同討論する説教分析の方法

第二、聖化の理解を深める教理的アプローチ

第三、ホーリネス系の伝統における良い説教に触れる実践神学的アプローチ。

十八世紀の英国メソジスト運動を導いたジョン・ウェスレーの文献や、日本のホーリネス運動の説教集などは多く刊行されており、それらは私たちの教派にとって大きな財産と言える。しかし、その間にある十九世紀の米国ホーリネス・リバイバル運動の時期の説教について、日本のきよめ派は、それほど関心を持たずにきた。この時代の良き説教を発掘することを求めて、リサーチする必要がある。今回は、米国のホーリネス運動の継承者として、私たちと同時代のデニス・キンロー師のホーリネス説教論を紹介しようと思う。*Preaching in the Spirit* は直訳すると「御霊の内です説教する」となるが、この書籍の内容は、ホイトン大学のビリー・グラハム・センターにおける連続レクチャーの記録をベースにして書籍として整えられている。

### 特徴の紹介

#### 1. 神さまとの親密な交わり

##### ・親密さ (Intimacy)

宗教 (Religion) の生命は関係性 (Relation)

モデルの提示：聖書物語に登場するアブラハムなどの霊性を紹介し、モデル (模範) に倣うように奨励する説教の語り口 (p24)。\*ニューリー師のワークブックの手法

#### 2. 引き離しによる結びつき (attachment by detachment) <sup>1</sup>

キンローは、第一章から核心に迫って行きます。信仰者が良いものから引き離される体験をすることがあると語ります。アブラハムがイサクを捧げたように、ヨブが全てを奪われたように、それは言葉に表現しきれない深い苦悩を伴います。キンローは、神様は悪いものを私たちから離すだけではなく、良いものさえも引き離されるように導くことがあることを示します。それは、他の全てとの引き離し (ディタッチメント) を通して、神様御自身との結びつき (アタッチメント) を持つことができるからと言うのです。

キンローが青年に牧会的な助言を求められるときに、殆どの若者から、自分の人生のための神さまの御旨 (God's will) を知りたいのだと尋ねられる。しかし、若者に知って欲しいと願うことは、神の御旨以上に、神様御自身を知る大切さなのです。神様を知りさえするならば、その御旨も明らかになり、そ

<sup>1</sup> Dennis F. Kinlaw, *Preaching in the Spirit*, 17-31.

れが現実になる。アブラハムは、彼の故郷、家、家族（それらは通常良きものとみなされるが）から離れるように召し出されて、新しいアイデンティティ、安全、満足を神様の内に見出したのです。

キンローは、牧師は特に、良いものからの引き離しが必要だと語ります。牧師は第一にキリストとの結びつきにあるのであって、会衆に所有されているのではないからです。教会員は愛すべきキリストの羊の群れであります。牧師は会衆をキリストと結びつけるよりも、牧師に精神的に依存させようとする誘惑があります。また、牧師は、会衆の霊的必要性に対して忠実に向き合おうとするとき、相手が気分を害することも語ることがあります。そのようにして会衆の罪と不信仰と向き合うのです。心に隠されている偶像を明らかにします。福音の説教は、時に聴き手の心を傷つけることがあります。しかし、解放のために、そのようにして通らなくてはならない道があるのです。そのようにして、本当のキリストとの結びつきへと、会衆を導くのが霊的な指導者の務めなのです。

A・W・トーザーの祈り<sup>2</sup>

父よ、わたしはあなたを知りたいのです。

しかし、わたしの臆病な心がおもちゃを明け渡すことを恐れます。

わたしの内に血が流れることなしに、それらから離れることはできないのです。

それらから引き離されることの恐ろしさを、あなたから隠そうとは願いません。

わたしは身を震わせながら来ます。

長きに渡りわたしが親しんできたものを、

わたし自身の生活の部分となっているものを、

すべてこれらのものを、私の心から抜き取ってください。

そのようにして、あなたに対立するものがなくなり、

あなたが、わたしの心にお入りになり、お住みくださるように。

そのとき、あなたの御足のあるところを、あなたが栄光の場としてくださるように。

そのとき、わたしの心には、もはや太陽が照り輝く必要がなくなるのです。

あなた御自身がわたしの心の光となり、そこには夜がなくなるからです。

イエスの御名によって、アーメン

## 2. キリストの似姿に預かる (Likeness of Christ)

- ・イマゴ・デイの回復としての救済観
- ・「キリストのように生きる」という聖化の生涯

## 3. 聖書への信頼と聖霊の照明

### ①聖書からの信仰生活に問いかける

- ・ **Relating the Written Word to the Living Word** (書かれた御言を、生活の言葉に関わらせる)
- ・ 社会学では、客観性を重視して善悪という道徳的判断を行わない傾向にある。しかし、神の啓示、聖霊の促しにおいて、人間は認罪を経験する。人は神の像に造られた故に、神のカテゴリーで判断し生きる存在である (p65-68)。

<sup>2</sup> A. W. Tozer, *The pursuit of God* (Harrisburg, PA: Christian Publications, 1948), 31. Quoted in Kinlaw, *Preaching in the Spirit*, 31.

- ・神のカテゴリーを無視することによる結末を、御信者に気づかせる (p86-73)。聖霊の促し。
- ・説教者は人間、社会、歴史の解釈者である。アウグスチヌスの例 (p73)。

## ②教理に優先する聖書

- ・義務的に聖書を読むことから、神に触れられて御言を読むことへの転換 (p8)。  
神がハートに触れて下さるように、神はマインドに触れて、聖書が分かるようになる (p8)
- ・聖書に思索や思想を読み込まず、聖書に聴く (p11)  
プリンストン神学校の O・パイパー教授「(要約) ルターやカルヴァンが宗教改革を作り出したのではない。ルターがガラテヤ書に聴いたときそれが起きた。宗教改革の悲劇は、ルターが死去した後に、メランヒトンがルターのわざの編纂を行い、同じようにカルヴァンが死んだ後にベザが編纂し、聖書を読むときに聖書にルターやカルヴァンを探すようになったことである」。

## ◇神の臨在豊かな礼拝を共に建てあげる Built Together for God's Dwelling

### 主の臨在溢れる礼拝の場

共に礼拝において臨在を感じる

神の臨在の中における認罪

罪人の解放 (Deliverance)

聖霊に満たされる牧師 (Spirit-Filled Preacher)

## 3. The Essential Relationship (根本的関係性)

- ・もし、説教者が神さまの真のメッセンジャーになるためには、説教者の生涯に聖霊との交わりを持たなくてはなりません。詩篇 51:11「わたしを御前から捨てないでください。あなたの聖なる霊をわたしから取らないでください」
- ・聖霊がミニストリーの源 inflow/outflow/overflow ヨハネ福音書 7:37-39
- ・普通の人 (ordinary people) を作り変える (transform) 聖霊  
\*1970年代のアズベリー・リバイバル
- ・キリストと御霊がわたしたちの関心の中心 J・ウェスレーは救いは「自己中心からの救済」
- ・贖罪によるキリストの臨在

J・E・ラテンバリー、*Eucharistic Hymns of John and Charles Wesley*、聖餐の霊性 (p116-117)

起き上がれ、わたしの魂よ、起き上がれ

あなたの罪責の恐れを振り払え

血潮が流れ落ちる犠牲が、わたしのためにあらわされた

御座の前に、私の保証人が立っている

彼の御手に私の名が書かれている

by Charles Wesley

ラテンバリーはこの歌詞に触れて、船乗りが名を腕に刺青で書き入れるように、十字架の御傷と血潮によって、主イエスは永遠に私たち罪びとの名を御手に書き入れてくださったと受け止める。

- ・Intimacy and "Sentness" (親密さと派遣) 主との親密な交わりを元に、主が私たちを遣わす。
- ・赦しの奉仕者